

ホトケノザ

仏ほとけの座ざ シソ科

口から生まれた世渡り上手

可憐なランの花の美しさに心惹かれる人は多いだろう。あの洗練された花の形は、ハチを呼び寄せるために進化してできた芸術品である。

しかし、道端にもランに負けない花を咲かせている雑草がある。ホトケノザである。ホトケノザはランの仲間ではなくシソ科の雑草であるが、虫眼鏡でよく見るとランを思わせるほど可憐で美しい花を咲かせているのだ。

花は上唇うわくちびると下唇したくちびるを開いた口のような形をしている。舌を出した口をデザインしたおなじみのローリング・ストーンズのロゴマークを思い浮かべてもらえればいいだろう。この花は唇に似ているので植物学的にも唇形花と呼ばれている。春の陽だまり一面に咲くホトケノザはまるでその唇でおしゃべりでも楽しんでいるかのようなにぎやかな感じがする。ホトケノザはこの魅惑の唇でハチを呼び寄せている。

下唇かしたんには目を引く美しい模様が描かれている。この模様が空中を飛ぶハチへの標識になっている。さらにこの下唇は少し広くなっていてハチの着陸場所としてヘリポートの

2



ような機能も持っている。標識を見つけたハチはこの模様を目がけて着陸するのである。下唇に着陸すると、上の花びらには花の奥へ向かっていくつも線が引かれている。

これがガイドラインと呼ばれるもので、ちょうど着陸した飛行機を誘導するラインのように、ハチを蜜のある場所へ導く道標の役割をしているのだ。そして、ハチを花の一番深いところへと導いていくのである。世の中には口のうまい人がいるが、ホトケノザもたとえれば巧みなリップサービスでハチを誘い込む。

花は細長く、なかへ入るほど細くなっていく。こうしてハチが花のなかを進んでいくと上唇じょうしんの下に隠れていた雄しべが静かに下がってくる。そして、蜜探しに夢中なハチの背中に花粉をつけるのである。

気づかれないように、そっと人の背中に「バカ」と書いた紙を貼るいたずらがあるが、それと同じようなものだろうか。しかも、ハチは背中まで足が届かないので、たとえ気がついたとしても自分ではその花粉を取ることができない。

しかし、ハチをとりこにして止まないホトケノザの魅惑の唇も、当のハチがいなければ何の価値もない。ハチが少なくなる夏になると、ホトケノザはその口をかたく閉ざしてしまふ。そして葉の付け根に目立たない閉鎖花をつけるのだ。閉鎖花は開くことなく、つぼみのままで、自分の花粉で受粉して実を結んでしまふ。無駄口は叩かないというこ

となのだろうか。あれだけ饒舌なホトケノザさえ、口を開くべき時期と、口を閉じるべき時期をわきまえているのである。

ところで、ホトケノザの名は花を囲む葉の形が仏さまの蓮座に似ていることに由来している。

せり なづな ごぎょう はこべら ほとけのぎ すずな すずしろ これぞ七草

この有名な春の七草に歌われる「ほとけのぎ」は、実はここで紹介したホトケノザではない。七草の「ほとけのぎ」は図鑑ではキク科の「コオニタビラコ（小鬼田平子）」とされているまったく別の植物なのである。コオニタビラコは、地面に広げたロゼット葉が仏さまの蓮座に似ていることから、もともとは「ほとけのぎ」と呼ばれていた。

ところが、ホトケノザの口のうまさ一枚上手だったのか、有名な春の七草として歌われていた「ほとけのぎ」の座を見事に奪い取ってしまった。そして区別するために、七草の「ほとけのぎ」は、正式には「コオニタビラコ」の名が与えられ、仏どころかついいには「小鬼」呼ばわりされるようになってしまったのである。仏心とは縁どおい厳しい敗者への仕打ちといえようか。

ホトケノザ *Lamium amplexicaule* (シソ科 オドリコソウ属)

ホトケノザは、畑や道端に普通に生育する一年生草本。世界の温帯から暖帯に広く分布する。秋に芽生え、地面付近で枝分かれして広がる。秋にも花を咲かせるが、主に早春から6月頃まで花を咲かせる。畑では冬から春の雑草となる。下の方の葉は長い葉柄があるが、花が付く茎の上部では葉が茎を抱いて葉柄がなくなる。

上2枚の画像は3月の画像であり、全体に紫色が残っており、花の色も濃い。、下2枚の画像は10月31日に撮影したものである。本来は春に咲くべき花であるが、秋に開花しているものを撮影したわけである(画像の背景には、オヒシバやカヤツリグサが写っており、隠しようもない)。全体に色が薄く、清楚な感じである。



1. ホトケノザ 2. ホトケノザの葉



シソ科のホトケノザ

高さ10～30cm。畑地に多い二年草で花は紫。葉を仏様の座布団に見立ててこの名が付いた。道ばたや畑、田んぼのあぜ道などどこにでも生える。見つけることが容易で**みんなこれが春の七草と思って食べている**。真冬から夏までほとんど1年中見られる。1月でも花が咲いているものがある。食べられない草はほとんど無いので、食べても安心であるが、あまりおいしくないらしい。



キク科のホトケノザ

高さ10～20cm。田に多い二年草で花は黄色。普通はコオニタビラコまたは、ただのタビラコという。**これが春の七草で言う「ホトケノザ」である**。ただし、これを見つけてるのは容易ではない。ロゼット型をした葉が地面にへばりついている。1月には花は咲かないのでこの葉だけで識別することは慣れない人には無理である。かなり間違った草を取って食べていると思われる。









